

令和4年度企画展概要(案)

No.	展覧会名	開催形態	会期	開催日数	ジャンル	概要	備考(巡回先等)
1	東北へのまなざし 1930-45 (仮)	巡回展	4月9日(土)～5月15日(日)	33	建築、デザイン、工芸(民芸)、郷土玩具	1930年代から終戦までの時期、ブルーノ・タウト、柳宗悦、シャルロット・ベリアン、今和次郎など、時代の先端を見ていた人々が東北地方を訪れ、その土地の建築や人々の生活用品に注目した。一方で、東北のこけしや郷土玩具への収集熱が飛躍的に高まったのもこの時代である。こうした外来者とは別に、東北出身のアーティストの中にも、故郷の人々と暮らしを見つめ直す動きが確認できる。 本展は、こうした複層的な東北を見つめる「まなざし」を通して、改めて東北の暮らしと文化について考えるものである。	福島県立美術館 令和4(2022)年6月4日～7月10日 東京ステーションギャラリー 令和4(2022)年7月30日～9月4日
2	Human and Animal 土に吹き込まれた命	巡回展	5月28日(土)～7月3日(日)	32	現代陶芸	国内外5作家による現代陶芸展。世界各地で活躍する奈良美智(日本)、Beth Cavenner(ベス・カヴェナー、アメリカ)、Stephanie Quayle(ステファニー・クエール、イギリス)、Susan Halls(スーザン・ホールズ、イギリス)、Kim Simonsson(キム・シモンソン、フィンランド)、5作家による現代陶芸作品や関連作品約100点を紹介する。出品作品はいずれも人間(Human)か動物(Animal)をモチーフとし、土素材の特質といきものもつ生命感とリアリティが重なる表現を見ることがができる。今注目される各国の作家の作品を通し、素材としての土のさまざまな可能性に迫る展覧会。	岐阜県現代陶芸美術館 令和3(2021)年4月24日～6月20日 滋賀県立陶芸の森 令和3(2021)年6月29日～12月19日
3	江口寿史イラストレーション展 彼女	巡回展	7月16日(土)～9月4日(日)	45	イラストレーション	本展は、漫画家・イラストレーターとして知られる江口寿史(1956年熊本生まれ、東京在住)が女性をテーマに描いたイラスト作品を大々的に紹介する。江口は、週刊少年ジャンプの『すすめ!!パイレーツ』(77年)で軽快なギャグ漫画家として連載デビュー、美少年を主人公に描いた『ストップ!!ひばりくん!』(81年)で大ブレイクした後、ストーリー漫画から次第にイラストレーションの世界に創作を広げた。女性を美しく描く卓越したセンスと、若者のファッションや音楽など時代の流行を巧みに取り込む描写には特に定評があり、以降の漫画のスタイルに変革をもたらした。また、彼の女性像は、音楽のレコード・CDジャケットやファッションブランドのビジュアルにも採用され、ジャンルを超えて広く愛されている。本展では、江口が40年にわたって綴った女性像、約400点のイラスト、漫画原稿、パンナー等を展覧。作品を通じて、その時々々の流行や若者の生き方等、時代の形も振り返る。	金沢21世紀美術館市民ギャラリー 平成30(2018)年4月28日～5月27日 明石市立文化博物館 平成31(2019)年4月6日～令和元年5月19日 しもだて美術館 令和元(2019)年7月13日～9月16日 東奥日報新町ビルNew'sホール 令和3(2021)年令和3年3月13日～5月9日 北海道立旭川美術館 令和3(2021)年7月10日～9月5日 北野美術館 令和4(2022)年3月～4月 千葉県立美術館 令和5(2023)1月～3月 熊本県立美術館分館 令和5(2023)年度
4	コレクター福富太郎の眼	巡回展	9月17日(土)～11月6日(日)	44	近代日本画、洋画	1931年東京に生まれた福富太郎は高度経済成長の波に乗り、全国に44に上るキャバレーを経営して大きな成功を収めただけでなく、浮世絵や美人画、戦争画に至るまで独自の鑑識眼に基づき美術品を収集し、美術界に知れ渡る「福富太郎コレクション」を築き上げた。本展は彼が愛したコレクションの中から錦木清方、伊東深水、上村松園ら定評のある画家をはじめ、近年再評価の著しい五姓田義松、渡辺省亭、北野恒富、島成園など多岐にわたる作品群をとおして、福富太郎という傑出した人物像に焦点をあてながら、氏の美術に対する審美眼や氏が愛した美術品に今も息づく魅力を紹介するものである。	新潟県立万代島美術館 令和3(2021)年9月18日～11月7日 あべのハルカス美術館 令和3(2021)年11月23日～令和4(2022)年1月16日 高知県立美術館 令和4(2022)年1月29日～3月21日 富山県水墨美術館 令和4(2022)年7月15日～9月4日
5	岩手の現代美術家たち展(仮)	自主企画	11月26日(土)～2022年2月12日(日)	63	岩手、現代美術	岩手出身・在住の美術家たちによるグループ展。過去5年間に於いて特に印象的な活動を行った作家を、学芸員の推薦により選出するもの。 現代美術とは、私たちと同じ時代を生きる作家による表現であり、そこには、私たちが直面している様々な問題の断面が反映されている。岩手で「いま」活動する作家たちの眼でとらえた、日常や世界の変化を表した作品と対峙し、彼らと世界との関わり方を考えることで、「変化の時代」において、美術のもつ新たな可能性を探る。	
6	アートフェスタ2022	自主企画、県芸術祭実行委員会との共催	2月25日(土)～3月19日(日)	20	岩手	本展は20回目の展示。2022年秋に開催される第75回岩手芸術祭美術展の受賞(芸術祭賞、優秀賞、奨励賞)作品に加え、日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真、デザイン、現代美術、水墨画の10部門それぞれから推薦された美術家たちの作品100点を展示。令和3年に受賞した令和2年度岩手県美術選奨受賞作家5人の作品も併せて展示。	